

2019年度メキシコ短期留学報告書

国際食糧情報学部・国際バイオビジネス学科・1年・玉井 聡一郎

・当初の目的

1. 私は現在、国際バイオビジネス学科に在籍していて、主に食品流通や環境問題などを扱っている。そのため農業などの現地実習を体験したことがなかったため、一度現地へ赴き、生産から流通までのプロセスを自らの目で確かめたいと思った。確かに、講義や書籍を用いても中南米の農業を学ぶことは出来る。しかしそれでは形式的なことしか学べず、実践的とは言えない。その思いから実際に現地に行くことでメキシコの農業の現状を直に学ぶことが出来ると同時に、メキシコ側から見た日本農業の実態を客観的に分析できるのではと考えた。
2. 私はスペイン語に興味があり、第二外国語でも履修をしている。そこでスペイン語圏であるメキシコでスペイン語を学び、コミュニケーション能力を養いたいと思った。
3. 実際に現地に赴くことで、言語の習得だけでなく異国の文化、生活環境、食、宗教などを総合的に学ぶことで、自分がこれまで見えていなかった世界を見ることが出来、新たな発見や課題を模索する手がかりになると考えたからだ。

・目的達成のための現地での活動

目的1に関して、主にチャピング大学での講義や、農場視察、サボテン畑の視察などから学ぶことが出来た。農場などを視察し最も感じたことはメキシコの温暖な気候を最大限生かした方法で生産をしているということだ。メキシコは一年中温暖のため、どの時期でも作物を収穫することが出来る。日本の場合は冬を如何に乗り越えるかが農家にとって一つの課題であるがメキシコでは特に気にすることなく生産できる利点がある。また、農家の生活ぶりを比較すると日本では今や農家だけで生計を立てることはかなり厳しい傾向にあるが、メキシコの場合、一年中収穫できることもあり、農業一本で生活している人も少なくなかった。日本は高い技術力がある半面どのように生計を立てていくかという課題が見えてきた。

目的2に関して、主にスペイン語の講義や日々の生活から学ぶことが出来た。これは私自身驚いたことだが、たった2週間ほどで耳が少しずつスペイン語に慣れ、コミュニケーション能力の向上を実感したことだ。最も大事だと感じたことは「聞く」姿勢である。慣れない言語のため、相手の言っていることを何としても理解しようとする心意気が非常に重要な要素だと感じた。

目的3に関して、日本との総合的な文化の違い毎日感じたが、特にソチミルコでの伝統的な有機農法やCIMMYT、Teotihuacan 遺跡など随所に文化の違いを感じる事が出来た。ソチ

ミルコで行われていた有機農法はバイオフィльтраというタンクを用いて汚水を濾過して使用していた。また、有機農業が行われている土地を現地ではチナンパと呼んでおり、アステカ語で生きている土という意味があるそうだ。土は循環するという考え方をしており、様々な作物を育てることで病気を防いでいた。

CIMMYT(国際トウモロコシセンター)では、様々な育成方法を研究しており在来の良い遺伝子の部分だけを取り、新種に組み込む研究も行っていた。また、病気の研究も行っており気候によって感染状況も変わるため、日本や中国と共同研究を行っていた。

・目的達成度の自己評価

今回の研修を通して総合的な自己評価は70点とする。初めてメキシコに行き、初めて農業の実習を行うなど始めて尽くしの短期留学であり、一日一日の内容が非常に濃い日々であった。16日間という短い期間の中での研修だったので多くの体験が導入部分だけになってしまうこともあり、もったいないと感じた反面、更に詳しく学んでいきたいと興味を惹かれる分野も多々発見することが出来た。当初の目的に掲げていた実際に現地へ赴き、生産の過程を知るという目標は色々な農場や畑で達成することが出来た。実際に経験したことで書籍などでは分からない現地の人々の様子も見ることが出来た。また、メキシコから見た日本農業の現状や課題も垣間見ることが出来た。日本のように技術力を上げればメキシコの農業も発展するとも言われれば一概には言えないところもあり、このような点が国際的に農業を考えて行くと難しい点であり、超えなくてはいけない壁であると感じた。

次にコミュニケーション能力を上げたいという目標は達成できたが、現在進行形で続けていきたいと強く思った。スペイン語も英語も話すことが出来る方がメキシコでは一定数おり、スペイン語で分からないときは英語で話してくれることもあったが、英語も発展途上の私にとって言いたいことを上手く伝えられないもどかしさが残った。そのため、英語にもよりいっそう力を入れたいと強く思った。また、コミュニケーションで大事なのは聞く姿勢であると既述したが、拙くても伝えようとする姿勢もまた非常に重要であると感じた。なぜなら現地の方々には拙いスペイン語だとしても読み取ろうとしてくれるからだ。そこで自分が諦めてしまっただけではもったいない。まずは伝えてみる、この繰り返しでコミュニケーション能力向上の鍵であると今回の短期留学で発見することが出来た。

最後に新たな発見や今後の課題を発見したいという目標は大いに達成できたと言える。メキシコで働く日本人の方々とお会いし、自分はまだ何も成し遂げていないし挫折してしまうような高い壁にも出会っていないことをしみじみと感じた。今回お会いした日本人の方々に共通していることは行動力があり、強い信念を持ち合わせているということだ。遠い異国の地で生活し、身を立てることは容易なことではないし、誰もが出来ることではない。その中で、日墨協会で働いていて自分の学科の先輩でもある鈴木綾華さんにお会いし、チャピngo大学への長期留学を経てメキシコで働くことを決意したことを聞き、感銘を受けたと同時にまずやってみるという精神が自分には足りていないと実感した。行動する前に考

えすぎることなく挑戦していくことも重要だと感じた。

・今後の取り組み

16 日間の短期留学を終えて感じたことは今回の研修で終わらしてはならないというものだ。普通に生活しては絶対に経験できなかったことが多々あり、ここを1つのスタートラインとして今後に活かしていきたいと思った。具体的には、長期留学に挑戦したいと思っている。メキシコに行く前から漠然と海外に行きたいという思いはあったが、確固たる思いや決意はなかった。しかし今回の短期留学を経てやりたいこと、学びたいことがあるにもかかわらず行動せずにいるのはもったいないし、何の意味も無いと強く感じた。日本にいるからこそ学べることも沢山あるが、現地に行かないと分からないことは更に沢山あると気づくことが出来た。また、チャピンゴ大学に来ている様々な国出身の留学生達を見て、もっと沢山の人々と関わり、自己形成の糧にしたいと思った。それほど今回の短期留学は自分にとって有意義なものであった。

今回の研修の大きな目的はメキシコの農業を学ぶことで日本の農業のあり方を考えたり、双方の今後の課題を考えていくことであるが、それ以外にも現地の人々との交流や、メキシコ在住の日本人の方々と交流したことで、農業以外のスキルをも学ぶことが出来たと実感した。

まずは、長期留学したいという目標に向けて語学の習得や主体的に動ける力を身につけ無駄のない日々を送りたいと思う。チャピンゴで出会った学生の中に秘本に留学したいという学生が多くいた。皆日本に興味を持った理由は様々だが、日本語を勉強して日本で学びたいという想いは同じであり、強い意志を感じた。今の日本人は自分の身の周りから社会全体に至るまで欲しいものが全て揃っているような便利すぎる世の中だと思う。この生活が当たり前になっている中で自分も学ぶ意欲であったり、自分から学ぶ姿勢を失っていたと実感し、チャピンゴの学生から学ばされた。既述したような今後の目標に向けて努力を怠らないよう一日一日を大切にしたいと思う。

・持って行って良かった物

まず持って行って良かった物は除菌シートと電子辞書の2つである。除菌シートは水が近くにないところも多くあったり、動物に触れる機会も多いので必要不可欠と感じた。

電子辞書は農場視察や講義などすぐに意味を知りたいときに非常に役に立った。また、英語での説明でも訛りが強いと聞き取りにくいこともあるので調べながら聞くことが良いと思う。

・お小遣い

walmart 約120ペソ(水など)

お土産など 約 750 ペソ

- ・次年度以降の参加者へ
 - ・自分が特に学びたい分野を勉強しておく
 - ・英語を勉強しておくにより話が入ってきやすい
 - ・現地学生に行う出し物の段取りとリハーサルをしておく